
パラレルフロンティア extra

みづごろう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パラレルフロンティア e x t r a

【Nコード】

N 2 7 9 1 U

【作者名】

みづごろう

【あらすじ】

パラレルフロンティアの番外編です

1話 誕生日スペシャル（前書き）

みづ「今回は誕生日スペシャルとして白雪姫の劇をやるわよー」

拓也「なんで白雪姫？」

みづ「ボコモン達をたしても十人でできる劇がなかなかないからね」

ボコモン「そういうことはら」

ネーモン「本編にはあんまし出れなかったからいつも以上にはりき
ってる」

みづ「ちなみに役割は下をご覧ください

白雪姫〓ヒカリ

魔女〓サヨ

王子〓輝一

七人の小人〓拓也

泉

純平

輝二

ボコモン

ネーモン

ナレーション〓みづ

鏡

獵師〓ゲストのロップモン

使い魔〓ピコデビモン

みづ」ということでは本編スタート」

1話 誕生日スペシャル

むかしむかしとっても美しいけど心の醜いおきさき、サヨがいました
おきさきは魔法の鏡を持っていました

サヨ「鏡よ鏡世界で一番美しいのはだあれ？」

みづ「それはもちろんサヨ様ですが白雪姫のヒカリ様は見た目だけでなく心もお美しいです」

パリーン

サヨ「なによ、この私が心が醜いともいうの！！信じられない」

サヨはムカついたので鏡をわってしまいました

サヨ「あんな奴、殺してやる！！」

サヨは、獵師のロップモンにヒカリを殺すように命じました

ロップモン「ったくなんで俺が人殺しをやんなきゃいけないんだ・
」

ヒカリ「あら、ウサギさんこんにちは」

ロップモン「ウサギじゃねーよ！！」

ヒカリ「ウサギさん、さっきそこで木の実を拾ったんですお一つど

うぞ」

ロップモン「だからウサギじゃねーって（泣）」

ロップモン（だがおきさきさまの命令でも天然だけど優しいこの子を殺したくねえな・・・）

ヒカリ「ウサギさん？」

ロップモン「お前、もう二度と家には戻らない方がいい・・・」

ヒカリ「分かりました・・・」

ロップモン（ありゃ？意外とあっさり）

ロップモン「森のほうに行くといい、お前ならやっていける」

ヒカリ「分かりました。」

ヒカリは以外にもあっさり森の方へいつてしまいました

そしてロップモンはサヨに動物の血をみせ、ヒカリは死んだと嘘をつきました

ヒカリ「まあ、なんて素敵な森なんでしょう」

???「小人、小人、俺たちや小人♪」

森の探索をしていると歌声が聞こえてきました

ヒカリ「あなた達は？」

小人A「俺達は七人の小人だぜ」

小人B「僕は友樹」

小人C「私は泉よ」

小人D「俺は純平」

小人E「俺は輝二・・・」

小人F「わしはボコモンじゃい」

小人G「俺ネーモン」

小人A「そして俺がリーダーの拓也」

友樹「そっとうあなたは？」

ヒカリ「私は白雪姫のヒカリよ」

純平「なんでこんなところに？」

ヒカリ「今日からここに住むことにしたんです」

ネーモン「家とかはどうするの？」

ヒカリ「それは・・・」

泉「じゃあ私たちと一緒に暮らさない？」

ヒカリ「いいんですか!？」

拓也「そうだな!あんたいい人っぽいし」

小人達と一緒に住んでから数日がたちました

ヒカリをみてる影が!!

そしてサヨの家

???「大変だー」

サヨ「どうした?可愛い使い魔ピコデビモン」

ピコデビモン「そんなのんきにリンゴ食べてるひまはないですよ!」

サヨ「どういふこと」

ピコデビモン「ヒカリがまだ生きているんだ」

サヨ「なんですって!?!?!?!」

ピコデビモン「どうしましょう・・・」

サヨはリンゴを見てわるだくみを思いつきました

サヨ「いいこと思いついた」

その頃ヒカリたちは

楽しく、のんきに遊んでいました

すぐそこに恐怖が迫ってることも知らずに

そしてまた数日が過ぎました

コンコン

ヒカリ「はぁーい」

???「おぬし、いきなりじやがリンゴは好きか？」

ヒカリ「はい、大好きです」

???「それはよかったお一つどうぞじゃ？」

ヒカリ「いいんですか？ありがとうございます！-」

???「それじゃあわしはこれで失礼するよ」

ヒカリ「ありがとうございます、おばあさん」

???「ふふふふ、ヒカリめこれが年貢の納め時ともしらずに・・・
おーっほっほほほ」

なんとそのおばあさんは、サヨが変装した姿だったのです

その頃ヒカリは

ヒカリ「美味しそうなリンゴ、いただきます」

カリッ

一口食べたとたんヒカリは倒れてしまいました

そう、そのリンゴは猛毒の入ったリンゴだったのです

拓也「ヒカリ？ヒカリーーーー！！！！」

小人達「うわあああああ」

小人達や森の動物たちは号泣していました

そんな時、通りすがりの王子、輝一が現れたのです

輝一「どうしたんだ？そんなに泣いて」（輝二は後ろ向きだけど）

泉「あ、王子様！ヒカリが、ヒカリが！！」

小人達は訳を話した

輝一「なんとひどいことを！！この姫は私の口付けで目覚めさせてあげよう」

チュッ

輝一の口付けでなんとヒカリは目を覚ましたのだ

ヒカリ「私は・・・」

輝「君はなんと可愛らしい」

ヒカリ「王子様」

そうして二人は恋に落ち、数年後、結婚するのであった

そしてサヨはどうなったかというと

サヨ「きいいいいい、私を差し置いて王子様と結婚するなんてゆるし〜ま〜じ〜、覚えてなさいよ!!白雪姫、ヒカリーーーーー
「!!!!!!!!!!!!!!」

地下牢だった

1話 誕生日スペシャル（後書き）

ヒカリ「なんかめっちゃくちや疲れた・・・¥¥¥」

輝一「俺も・・・¥¥¥」

友樹「あれ？二人とも顔赤いですよ」

みづ「つまりあれね、劇中赤くなるのを必死で押さえてたから今頃になって顔が赤くなってきたのよ」

サヨ「なんであたしが悪役なのよっ」

みづ「今頃になって文句言わないでよ、それに主役は主役で大変なんだから」

ヒカリ「キャラも作らなきゃいけないし、顔が痛くなるし」

みづ「というわけで本編もよろしくー」

拓也「最後に・・・」

みづ以外「ハッピーバースデーみづごろう！！！」

みづ「ありがとう（泣）」

2話 ときどきシンデレラ（前書き）

みづ「今日はリクエストでシンデレラをやります」

みんな「イエーイ」

みづ「くじ引きの前にゲストを紹介するよ」

みんな「ゲスト??」

小夜「つれてきたよ」

???「ゲストの里途夢です」

???「同じくジュリアよ」

輝二「里途夢と」

輝一「ジュリア?」

みづ「いつか知ることになるからいまはそんなに詳しく教えられないよ」

日花莉「じゃあくじ引きマシンセットオン」

みづ「くじ引きマシンの結果は」

シンデレラ＝泉

王子「拓也」

意地悪なお姉さんA「小夜」

意地悪なお姉さんB「日花莉」

お母さん「ジュリア」

魔法使い「里途夢」

ナレーション「輝一、輝二」

猫「ワニヤ友」

馬「シマユニモン」

執事「純平」

その他「いろいろなデジモン」

友・一・二「ちょっと待て!!」

里途夢「なに?」

一・二「なんでナレーションが二人なんだ?」

日花里「なんかの手違いがあつたみたいね…」

小夜「せっかく決まつたんだから文句言わない」

友樹「なんで僕だけデジモンなの？」

みづ「だってペットが人間の姿だったらおかしいじゃん」

みんな「確かに…」

みづ「その代わり喋れる設定にしてあげるから」

友樹「それなら…」

みづ「あとシマユニモンはヒビーンしか喋れないからちゃんとアフ
レコやってね」

友樹「え!？」

みづ「じゃあそろそろ始まるよ」

2話 ときどきシンデレラ

昔々あるところに意地悪なおば…お母さんとお姉さんと心の優しい娘がいましたb y輝一

(輝一、今おばさんって言おうとした!?)

心の優しい娘の名前はシンデレラb y輝二

ところがシンデレラは見た目だけでなく中身も美しいがためお姉様がたに嫉妬されいつもいじめられていました(棒読み)b y輝一

そんなシンデレラのゆういつの友達はずいとのワニヤモン、友樹でしたb y輝二

ジュリア「シンデレラ!!まだそこが汚れてるわよ!!!」

シンデレラ「はい…お母様」

小夜「シンデレラ!洗濯やっというていつたわよね?」

日花莉「シンデレラ!皿洗いはどうなったの?」(棒読み)

小夜(ちょっと日花莉、ちゃんとやってよ!!)(ひそひそ)

日花莉(だってこういう役なれないんだもん)ひそひそ

小夜(いいからやる!!)(ひそひそ)

シンデレラ「今やります…お姉さま」

そしてその夜…by輝二

シンデレラ「疲れた…」

ワニヤ友「大丈夫？シンデレラ」

シンデレラ「うん、大丈夫よ、友樹」

そんなある日のこと…by輝一

ジュリア「みんな、お城のパーティーの招待状が届いたわよ」

小夜「本当？お母様」

ジュリア「ええ」

シンデレラ「お母様、私の招待状は？」

ジュリア「は？そんなものないわよ」

シンデレラ「え？そんな…！」

小夜「あたりまえじゃない」

日花莉「た、たとえあつたとしてもあんた、そんな汚い格好でいくの？」（棒読み）

シンデレラ「で、でも…！」

ジュリア「あんたは留守番！！それから掃除しといてよね」

そうしてシンデレラー人残していつてしまいました…by輝二

シンデレラ「しくしく…私なんか悪いことをした？」

ワニヤ友「そんなことないよ…シンデレラはいつもがんばってるよ…シンデレラが泣いてると僕まで悲しくなっちゃうよ…」

そんな時、どこからともなく魔女が現れたのですby輝一

（そういえば輝一のキャラが元に戻ってる…）

シンデレラ「だ・誰ですか!？」

里途夢「心配するな…私は通りすがりの魔女、里途夢よ」

ワニヤ友「魔女?」

里途夢「そう、私は泣いてる人をほおっておけないの、シンデレラ、あなたの願いをかなえてあげるわ」

シンデレラ「私…舞踏会に行きたいの…」

里途夢「いいわ、その願い叶えてあげるわ」

里途夢『チチンプイプイワニヤモンよシマユニモンになれ』

そう唱えるとワニヤモンはシマユニモンになってしまいましたby

輝一

里途夢「じゃあ次よ、外に出て」

里途夢『チチンプイプイリンゴよりリンゴの馬車になれ』

そう唱えるとカボチャ…じゃなくリンゴの馬車になったby輝一

里途夢「じゃあ次はあなたの服を何とかしないとね」

里途夢『チチンプイプイシンデレラの服よ変われ』

そう唱えるとシンデレラの服はピンク色のドレスに変わったby輝一

シンデレラ「わあ、素敵」

シマ友「シンデレラ、とても綺麗だよ」

シンデレラ「本当？友樹」

シマ友「うん」

里途夢「じゃあ12時の鐘がなったらその魔法が解けてしまっわ」

シンデレラ「分かりました」

里途夢「じゃあね」

そついうと魔女は消えてしまいましたby輝一

シマ友「シンデレラ、さあ馬車に乗って」

シンデレラ「ええ」

そういつてシンデレラは馬車に乗りましたb y輝二

しばらくして…b y輝一

シマ友「シンデレラ、お城に着いたよ」

シンデレラ「わあ」

シマ友「さあ、早く、じゃないと魔法が解けてしまうよ」

シンデレラ「そうね」

そういつてシンデレラはお城に入っていきましたb y輝二

シンデレラ「あれが…王子様」

純平執事「王子…お妃にする方は見つかりましたか？」

拓也王子「なんかさあぜんぜんいい子が見つからないんだよなあ」

純平執事「そんなことをおっしゃられても…今回見つけないと間に合いませんよ」

拓也王子「そんなことを言われても…ん？」

拓也王子は王子に見とれてたシンデレラを見つけましたb y輝一

シンデレラ（あれ、なんかこっち見てる！？）

拓也王子「君、名前は？」

シンデレラ「えっ！？私ですか？私の名前はシンデレラ」

拓也王子「シンデレラ…俺と一緒に踊っていただけませんか？」

シンデレラ「私でよければ喜んで…」

純平（拓也があんな口調だと違和感があるな…）

そういつて二人は踊りだしましたb y輝二

輝一（あ、音楽忘れてた）ポチ

）
）
）

→カラオケ版風のしずく

そしてしばらく踊ってb y輝一

拓也王子「シンデレラ、俺の（）ゴーンゴーン（）！？」

シンデレラ「…！12時の鐘！王子様ごめんなさい…！」

そういつてシンデレラは急いでお城の階段を下りて行ってあまりにも急いでたのかガラスの靴を落としてしまいましたb y輝二

そして翌日、そのガラスの靴の落とし主を探しにシンデレラの家

来ましたb y輝一

純平執事「この家の女子は速やかに出てきてこのガラスの靴を履いてみてください」

ジュリア「はい…小さい…」

純平執事「次のもの」

小夜「…私もダメみたい」

日花莉「…私もダメね」

純平執事「じゃあそのワニヤモンを抱いている者もこっちに来て靴を履いてみなさい」

ジュリア「このこはダメよ!…」

小夜・日花莉「そうよそうよ」

拓也王子「はかせてみせろ!…王子の命令だ」

ジュ・サ・ヒ「くっ」

シンデレラ（この靴を履けば…）

そうしてシンデレラはガラスの靴を履いて見事にピッタリではありませんかb y輝一

拓也王子「おお、ピッタリ君、自分の名前は？」

シンデレラ「シンデレラです、王子様」

拓也王子「おお、では私と結婚してくれるかね？」

シンデレラ「はい、でもこの友樹も一緒じゃダメですか？」

拓也王子「そのワニヤモンかい？もちろんいいとも」

シンデレラ「なら喜んで！！」

そうして拓也王子、シンデレラ、友樹は幸せに暮らしたそうなのよ

輝二

めでたしめでたしbyナレーション二人

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2791u/>

パラレルフロンティア extra

2011年11月16日18時33分発行